足立区立足立小学校（２年目）

【校長】 角田　成隆　　【児童数】 ５８０名　　【学級数】 ２２学級

次の取組へ

【課題・改善】

○　**体力・運動能力調査の総合評価**
「A+B　３３%」　「D+E　３７%」
「D＋E」の割合が５ポイント増加した。
⇒元気アップタイム、体育の授業改善の継続
⇒「運動の行い方」が理解できる取組
⇒児童自身の目標設定をした取組

○　**児童の健康面へのアプローチ**
⇒肥満傾向解消への新たな取組
⇒家庭への情報提供、啓発と連携
⇒食育の取組の充実

【実態・課題】

○　**運動やスポーツをすることが「好き」「やや好き」の割合が９３%**
⇒・「嫌い」の児童数を減少させる。
・高学年でも「好き」を維持する。

○　**体育学習が「楽しい」「やや楽しい」の割合が９７%**
⇒・「思わない」の児童数を減少させる。

○　**体力・運動能力調査の総合評価**
「A+B　３３%」
⇒「A+B」4 割以上、「D+E」3 割以下

目標
・運動やスポーツをすることが好きな子供（90%以上）
・体育学習が楽しいと思う子供（90%以上）
・体力・運動能力調査総合評価（A+B 4 割以上、D+E 3 割以下）

【成果】

○　**運動やスポーツをすることが「好き」「やや好き」の割合が９３%を維持**
⇒「嫌い」が１%未満に減少
元気アップタイム、外部人材と連携した運動機会の充実による効果があった。

○　**体育学習が「楽しい」「やや楽しい」の割合が９０%以上**
⇒「思わない」が１%未満に減少
ICT 機器の利活用を効果的に行うことで、児童主体の個別最適な学びの実現に近付いた。

【取組】

○　**体育学習における取組**
・デジタル教材の活用等、一人１台端末の活用を工夫して「個別最適な学び」の実現に努めた。

○　**体育的活動の推進**
・休み時間の運動（遊び）の奨励のほか、朝 15 分間の「元気アップタイム」を設定し、自ら運動に親しむ態度を育成した。

○　**障害者理解教育の推進**
・アスリートを招へいし、多くのパラスポーツに親しむ学習や運動を通して障害者理解教育を推進した。

【取組（詳細）】

○　一人１台端末を活用した個別最適な学びの実現

体育学習においても一人１台端末を活用し、「個別最適な学び」の実現に努めた。児童がお互いに技や動きについて動画を撮影し合ったり模範動画を視聴したりして児童自身が学習課題を見出し、解決できるようにした。

また、Google フォームやスプレッドシートを活用して学習の振り返りを行った。スタディログを残すことで、教師が児童それぞれの課題や学習状況を把握し、個に応じた支援ができるようにした。

個人やチームの振り返りを、ICT 機器を活用して行った。

○　体育的活動を充実⇒運動に親しむ態度の育成へ

元気アップタイム

ASC
（足立スポーツクラブ）

児童が自分で場を選択できるようにすることで、より運動に親しめるように努めた。

朝の 15 分間を「元気アップタイム」とし、児童が多様な運動遊びの楽しさや喜びを感じ、より運動に親しむことができるようにした。初めは教師がプレイリーダーを担い活動をスタートさせたが、児童主体の活動へと移行することで、児童自身がそれぞれ好きな場を選択し、主体的に運動に取り組めるようにした。また、異学年交流（縦割り班）を活用することで、高学年児童がプレイリーダーとなり、児童同士のつながりの中で運動遊びが活発になるようにした。

放課後の ASC（足立スポーツクラブ）では高学年児童が任意でサッカー、バスケットボール、卓球、ボッチャから種目を選択して取り組むことで運動に親しむことができるようにした。

○　パラスポーツを通じた障害者理解教育

「学校 2020 レガシー」の一つとして、「ゴールボール教室」、「ブラインドマラソン体験」、「ボッチャ体験」を実施し、体験を通してパラスポーツへの関心を高めるとともに、児童に共生社会について考えさせる機会とした。今年度は、新たに「シッティングバレーボール教室」を実施した。様々なパラスポーツに親しむことで、「いつでも、どこでも、誰とでも」運動を楽しめる児童の育成に努めた。

アスリートを招いた
「車いすバスケットボール体験」